

レジメン名

TT/ivBU

出典

Int J Hematol.2022Mar;115(3):391-398.
各薬剤添付文書
造血細胞移植ガイドライン 移植前処置(第2版)

実施部署区分

☒入院 ☐外来 ☐処置

対象疾患

中枢神経原発悪性リンパ腫

☐進行・再発
☐補助療法(術前・術後)
☒自己末梢血幹細胞移植前処置

投与開始の基準

WBC	1,500/mm ³ 以上	Hb	9.0mg/dL以上
PLT	10万/mm ³ 以上	AST,ALT	100IU/L未満
T-bil	2.0mg/dL未満	SCr	1.5mg/dL未満

投与中止の基準

その他			

1クール期間 9日

総クール数 1クール

(次のクールまでの標準期間)

薬剤名・略号	1日投与量	投与方法	投与速度 (時間)	投与日(d1、d8等)
ブスルファン(ブスルフェクス)	3.2mg/kg ^{※1}	輸液適量 (10倍量) ^{※2} 中心静脈より投与	3時間	d-8、-7、-6、-5
チオテパ(リサイオ)	5mg/kg ^{※3}	輸液250mL	2時間	d-4、-3
レベチラセタム(イーケブラ) ^{※3}	500mg/回 ^{※4} を1日2回	経口		d-9、-8、-7、-6、-5、-4
※1:肥満患者(BMIが25以上)では投与量が過多にならないように、標準体重から換算した投与量を考慮すること。 出典では、0.8mg/kg×4回(6時間毎)であるが添付文書のB法(3.2mg/kg)で登録。 ※2:ブスルファンの最終濃度が約0.5mg/mLになるように、ブスルフェクスを10倍量に調製する。 ※3:出典では、200mg/m²であるが添付文書用量である5mg/kgで登録。 ※4:ブスルファンの投与により痙攣を起こす可能性があるため、あらかじめ抗痙攣薬の使用を考慮するなどの適切な措置を講ずること(ブスルフェクスの投与前12時間から最終投与後 24 時間まで抗痙攣薬の投与が推奨される)。 ※5:腎機能障害・重度の肝機能障害患者に関してはイーケブラ添付文書を参照し、用法・用量を調節すること。 【注意事項】 ・ブスルファンは中心静脈からポンプを用いて投与し、調製後 8 時間以内に投与を終了すること。				

1日投与順 (経時的にプレメディケーション・ポストメディケーション、 溶解液まで含む)
d-8、-7、-6、-5 中心静脈より投与 ①グラニセトロン3mg/バッグ+デキサート9.9mg(15-30min) ②生食50mL(フラッシュ用) ③ブスルフェクス3.2mg/kg+輸液適量(10倍量) ^{※2} (3hr) インラインフィルターを使用して投与 ④生食50mL(フラッシュ用)
d-4、-3 ①グラニセトロン3mg/バッグ+デキサート9.9mg(15-30min) ②生食 50mL(フラッシュ用) ③リサイオ5mg/kg+輸液250mL(2hr) インラインフィルターを使用 ④生食 50mL(フラッシュ用)
<内服薬> day-9～-4 イーケブラ ^{※4} 1000mg/日 ^{※5} 分2